



「起こしてしまわないようにする」ではなく「即救助」の状況。

雨の日、どこで生活しているのだろう

住んでいる街について何も知らなかった

市による「居住、長時間滞在・荷物存置、勧誘、物品販売等を禁止します」との看板があった。

深夜喫煙所でシケモクを漁るおじさんなどを見かけることはあるのだが、彼らが寝ている場所はもっと人が寄り付かない都市の奥の奥なんだろう

夏の調査以来だったので、新しくなったベンチを発見したり、貼ってあるポスターからイベント情報を仕入れたりした。

ホームレスの方にとっては居づらい雰囲気

寒空の下、1人外ベンチでお弁当を食べる人にも会い、なぜそこで?と思う場面もありました。暗いまちはその人が1人残されているようで気になりました。

予想以上に、ホームレスの方々がきちんとした生活を送っていることが感じられました。

冷たい雨水がテーブルの隙間や地面からかかっていそう、あまり雨をしのげられていなさそうな場所で寝ている

街中でみた大半の人がお酒や飲み物を片手に談笑している人々だった。

煌々と照明が光っているせいで休める環境が限られている

どんな人も受容できない都市になりつつある

警備員の存在は、ここにはないという無言の圧力のように感じ、少し緊張しました。

路上生活者が寝起きする数十メートル先には半額でも売れずに残っている食品があふれかえっています。

ホームレスの姿も激減した。これが良い兆候ならいいのだが……景気からすると、楽観視はできない。

生活感漂う荷物がある一方で、高架下の支柱裏におしこめた缶や段ボールは無機質な仕事場のよう映った。

今はすっかりキレイな公園に変わっている

とても心細くて怖かった

日本で見かけるホームレスの方は歩行者に背を向けるようにして眠っている

余剰や余白の空間がない

実際に調査に行っていた時間は2時間弱でしたが、私にはそれ以上の時間として感じられました。

場所を追われた人たちはどこへ行ったのか

冬の深夜でも人がいて気ままにご飯をたべお酒を飲んだり運動したりする人たちがいて、少し驚きました。

住宅地における「空間の改善」「安全」と「隙間に隠れる」ことが両立しない。